

**株式会社 免疫生物研究所****東証グロース 証券コード：4570****代表取締役社長 清藤 勉****2023年11月30日（木）**

---

**2024年3月期（第42期）**

**第2四半期連結決算**

---

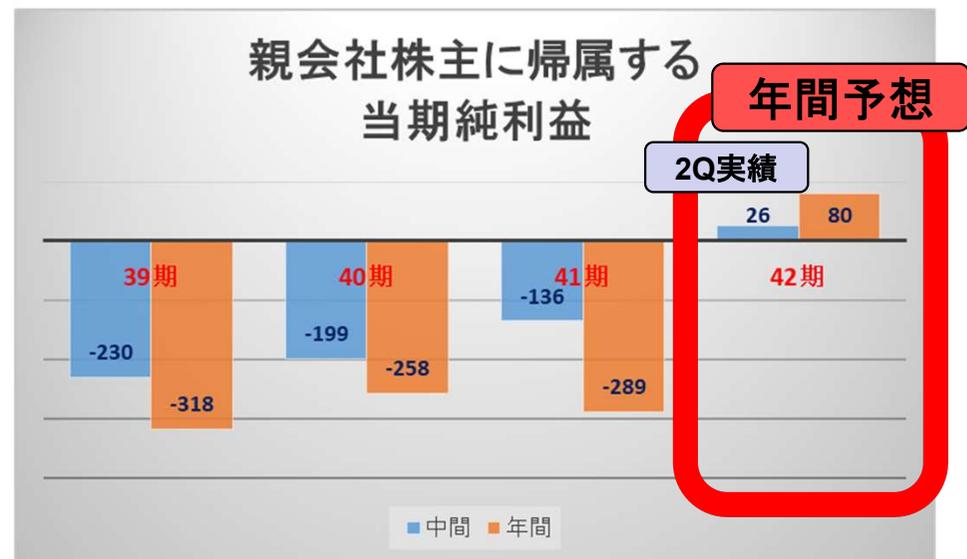
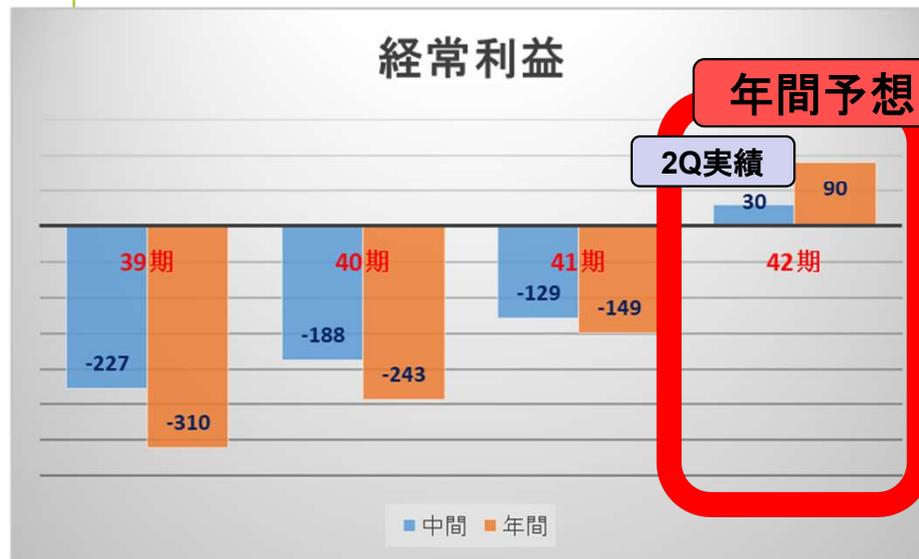
## 【連結業績】

(金額:千円)

	2023年3月期 第2四半期 (41期)	2024年3月期 第2四半期 (42期)	前期差
売上高	293,166	365,516	+72,350
営業利益	△54,561	14,627	黒字化
経常利益	△129,668	30,639	黒字化
親会社株主に帰 属する当期純利益	△136,168	26,861	黒字化

## 【連結業績 通期予想グラフ】

(金額:百万円)



### 【セグメント別 売上高】

セグメント		売上高		
		金額 (千円)	前年同期比	
			増減額 (千円)	増減率 (%)
抗体関連事業		363,410	+72,230	24.8
内訳	診断試薬サービス	313,076	+66,580	27.0
	TGカイコサービス	20,672	+6,359	44.4
	検査サービス	29,660	△709	△2.3
化粧品関連事業		2,106	+119	6.0

※第1四半期より報告セグメントの区分を変更しております(2023年4月27日公表「報告セグメントの変更に関するお知らせをご参照ください」)。

**診断試薬サービス**  
 自社製品及び受託サービスが前年に比べ大幅に売上が増加  
 EIAキット・・・**国内外で大幅増**  
 抗体・・・**国内大幅増**  
 受託サービス・・・**国内大幅増**

**TGカイコサービス**  
 ラミニン(iMatrix-511)の纏まった販売により、前年に比べ**増加**

**検査サービス**  
 「LipoSEARCH」に関連する検査や臨床検査サービスは、前年に比べ若干の**減少**

**化粧品関連事業**  
 国内通信販売が中心となり、前年に比べ若干の**増加**  
 ※海外販売は、取引先と連携がとれず、売上に貢献できず

## 【セグメント別 営業損益】

セグメント		営業損益		
		金額 (千円)	前年同期比	
			増減額 (千円)	増減率 (%)
抗体関連事業		17,706	+64,243	—
内訳	診断試薬サービス	86,089	+49,137	133.0
	TGカイコサービス	△64,867	+12,361	—
	検査サービス	△3,515	+2,745	—
化粧品関連事業		△3,079	+4,945	—

## 抗体関連事業

2024年3月期(第2四半期)において、**黒字化を達成**

## 【利益増要因】

- ・高利益率の自社製品の販売増
- ・資本金の減少による税金コストが**大幅に減少**

## 【利益減要因】

- ・人件費や製造コスト等が**増加**

## 化粧品関連事業

諸経費の抑制やショップ配置等の見直しによる販売費の減少で**赤字幅減少**

※第1四半期より報告セグメントの区分を変更しております(2023年4月27日公表「報告セグメントの変更に関するお知らせ」をご参照ください)。

※遺伝子組換えカイコの研究開発費は、TGカイコサービスに含めております。

## 【連結貸借対照表の概要】

単位：百万円		2024年3月期 第2四半期末			特記事項
		構成%	前年度末比 %		
流動資産	1,159	80.8	△0.5	<b>【主要な資産の前期末差】</b> ・現預金 +7 ・売掛債権 △24 ・投資有価証券 △0	
(現預金)	(621)	(43.3)	+1.2		
固定資産	275	19.2	2.3		
資産合計	1,434	100	0.0		
流動負債	223	15.6	△11.2	<b>【主要な負債の前期末差】</b> ・借入金 +3	
固定負債	105	7.3	+1.4		
(借入金 ※長短含)	(237)	(16.5)	+1.3		
負債合計	328	22.9	△7.5		
純資産合計	1,105	77.1	+2.5		
負債純資産合計	1,434	100	0.0		

## 【連結キャッシュ・フロー】

単位: 千円	2024年3月期 第2四半期	主な要因
現金及び現金同等物の期末残高	<b>566,074</b>	前年同期に比べ225百万円増加
営業活動による キャッシュ・フロー	<b>7,081</b>	(増加要因) ・税金等調整前四半期純利益を計上 ・売上債権の回収増加 (減少要因) ・棚卸資産の増加 ・仕入債務、未払債務の減少 ・法人税等の支払
投資活動による キャッシュ・フロー	<b>△8,821</b>	(減少要因) ・定期預金等の預け入れ
財務活動による キャッシュ・フロー	<b>2,996</b>	(増加要因) ・長短期借入金の増加 (減少要因) ・長期借入金の返済

## ■ 今後の展開

※今後の展開につきましては、2023年5月31日公表の  
**「事業計画及び成長可能性に関する説明」**  
をご参照ください。

## 注意事項



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。